

ケニアで「ぼかし」づくりについて学びました

カロリーオフセットでは東アフリカ諸国で有機農業を営む菜園グループを支援しています。化学農薬や化学肥料を使わない野菜や果物を育てて食べることは、体のためにも、地球のためにも大切だという考えに賛同した人々がグループを作り、有機肥料や農薬を自らの手で作っています。今回訪問したケニアのカフアイニ菜園ではメンバーが協力して「ぼかし」づくりを進めています。虹のように色とりどりの野菜を育てて食べることを大切にし、単一作物を植えるのではなく多様性に富んだ菜園を育てることを重視しています。

新しく学校菜園やグループ菜園を始める人々を対象に、ぼかしづくりのノウハウや有機農業についての研修会も開催しています。2日間のトレーニングで、参加者は化学肥料や農薬が生物多様性に与える影響、地場作物の栽培や種を保存するシードバンクの重要性などについての講義を受けました。ぼかしやコンポストづくりを体験し、頭も手も動かす中身の濃い内容でした。

443

の農園ができました

(2022年12月時点)

モデル菜園での研修会

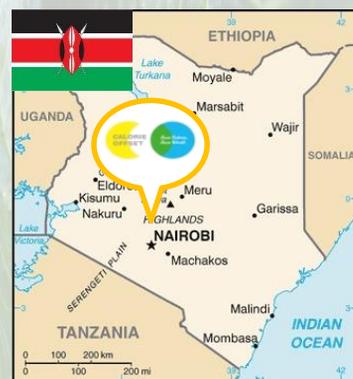


モデル菜園のリーダーから説明を聞く参加者。草むらのように見えますが、実は様々な野菜が混植され、生命力にあふれた菜園です。

ぼかしは世界の共通語



日本語が語源のぼかしは「Bokashi」として広く世界に知られています。イーストなどの発酵素材を利用するため、通常のコンポストよりも成熟期間が短く、すぐに肥料として利用できることが利点です。イーストと糖蜜の液を土、わら、灰、ふすまに混ぜた盛土に密閉して一晩おくと発酵が進みます。研修会の2日目に盛土に手を入れるとホクホクと温かく、土が活着していることが感じられました。ぼかしは肥料として、また土壌改良のためにも利用されています。



アフリカ東部に位置するケニアは、国土が日本の1.5倍の約58.3万Km²、東はインド洋、北は砂漠、中央部の高地、南はサバンナと地形は変化に富んでいます。

人口は4,756万人で、観光や農業が経済の中心で、人口の約8割が農業に従事して生計を立てています。